預言者伝（スィーラ）

第 6 巻

夜の旅と昇天

イスラーとミウラージュ ― エルサレムと七つの天への旅



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です ― 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 6 巻

夜の旅と昇天

イスラーとミウラージュ：クルアーンと真正なハディースに基づく、エルサレムと七つの天への旅、礼拝の義務化、そしてアカバの誓い

سُبۡحَٰنَ ٱلَّذِيٓ أَسۡرَىٰ بِعَبۡدِهِۦ لَيۡلٗا مِّنَ ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡحَرَامِ إِلَى ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡأَقۡصَا
ٱلَّذِي بَٰرَكۡنَا حَوۡلَهُۥ لِنُرِيَهُۥ مِنۡ ءَايَٰتِنَآۚ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلۡبَصِيرُ

「かれに栄光あれ。そのしもべを、（マッカの）聖なるマスジドから、われが周囲を祝福した至遠の（エルサレムの）マスジドに、夜間、旅をさせた。わが種々の印をかれ（ムハンマド）に示すためである。本当にかれこそは全聴にして全視であられる。」

夜の旅章 17:1

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

ある夜、しもべをマスジド・ハラームからマスジド・アクサーへと旅させられたアッラーに栄光あれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』の第 6 巻は、人類の歴史で最も偉大な旅――夜の旅（イスラー）と昇天（ミウラージュ）――と、そこから持ち帰られた一日五回の礼拝という贈り物をたどります。続いて、ヤスリブの人々との出会いと、ヒジュラへの道を開いたアカバの誓いを語ります。この知識が「イルムン・ユンタファウ・ビヒ」、すなわち役に立つ知識となりますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には人物は描かれていません。描かれているのは**夜のエルサレムの旧市街**です。**満天の星空**の下で石の城壁とドームが輝き、**一筋の光**が町から雲を突き抜けて高い天へと昇っています。手前には、丘を抜けて曲がりくねる**石の道**と**果樹園**が町へと続いています。

石の道と果樹園は、つらいターイフへの旅（第5巻）を思い起こさせます。その道は今、光へと向かっています。町は夜の旅の目的地であるアクサー・モスクであり、天へと昇る光は昇天――七つの天を越えてスィドラ・アル＝ムンタハーに至ったかれの旅――を表しています。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

夜の旅と昇天 — はじめに
1. ターイフの後：支援者を求めて — スィーラの注
2. 夜の旅と昇天はいつ起きたのか — 見解の表
3. 「かれに栄光あれ…」 — 夜の旅章 17:1
4. 切り開かれ、信仰で満たされた胸 — 『サヒーフ・ブハーリー』3887
5. ブラーク — 描写の評価
6. エルサレムにて：預言者たちの導師 — 『サヒーフ・ムスリム』162、172
7. アクサー・モスク — 地図；事実
8. 昇天：マーリク・ブン・サアサアのハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』3887
9. 七つの天の預言者たち — 七つの天の図
10. スィドラ・アル＝ムンタハー — 星章 53:13–18
11. 一日五回の礼拝という贈り物 — 礼拝の軽減の図
12. かれはアッラーを見られたのか — 見解の評価
13. マッカの朝：クライシュ族の否認 — 『サヒーフ・ブハーリー』3886
14. アブー・バクル・アッ＝スィッディーク — スィーラの注
15. 人々への試練 — 『サヒーフ・ブハーリー』3888
16. 夜の旅と昇天の教訓 — 教訓の表
17. ヤスリブ：備えられた町 — 『サヒーフ・ブハーリー』3777
18. ハズラジュ族の六人 — スィーラの注
19. 第一次アカバの誓い — 『サヒーフ・ブハーリー』18
20. ムスアブ・ブン・ウマイル：イスラーム最初の使節 — 『サヒーフ・ブハーリー』3925
21. 第二次アカバの誓い — 図；スィーラの注
22. 真正な伝承と有名な話のあいだ — 伝承の評価
23. このシリーズの重要な場所 — ヒジュルからエルサレム、ミナーまで
24. 夜の旅の時代のエルサレム — ビザンツとペルシアのあいだ
25. 歴史の足跡：アクサー・モスクの境内 — 岩のドームとブラークの壁
26. このシリーズの人物 — 預言者たちと教友たち
27. 年表：スィーラと世界 — 西暦 614〜692 年の出来事の表
28. よくある質問 — 12 の質問

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

29. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

夜の旅と昇天

『預言者伝（スィーラ）』第5巻は、ボイコットされ、アブー・ターリブとハディージャを失い、ターイフで石を投げつけられた後、アッラーの使徒 ﷺ が一人の多神教徒の保護のもとでマッカに戻られたところで終わりました。地上が狭く感じられたそのとき、アッラーは**天**を開かれました。この第6巻は、マスジド・ハラームからマスジド・アクサーへの夜の旅である**イスラー**と、七つの天を越えてスィドラ・アル＝ムンタハーにまで昇り、そこで**一日五回の礼拝**が義務とされた**ミウラージュ**（昇天）を語ります。

本書の後半は、続いて地上で与えられた安らぎを語ります。**ヤスリブ**から来た何人かの男たちとの出会い、二度の**アカバの誓い**、そしてイスラーム最初の使節としての**ムスアブ・ブン・ウマイル**の派遣です。これがヒジュラへの道を開きました。

夜の旅と昇天の話は非常に長く、伝承も多く、その一部は真正で、一部は弱いか捏造です。本書は**クルアーンと真正なハディースに依拠し**、とくに『サヒーフ・ブハーリー』のマーリク・ブン・サアサアのハディースを柱とし、真正でない話ははっきりと示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

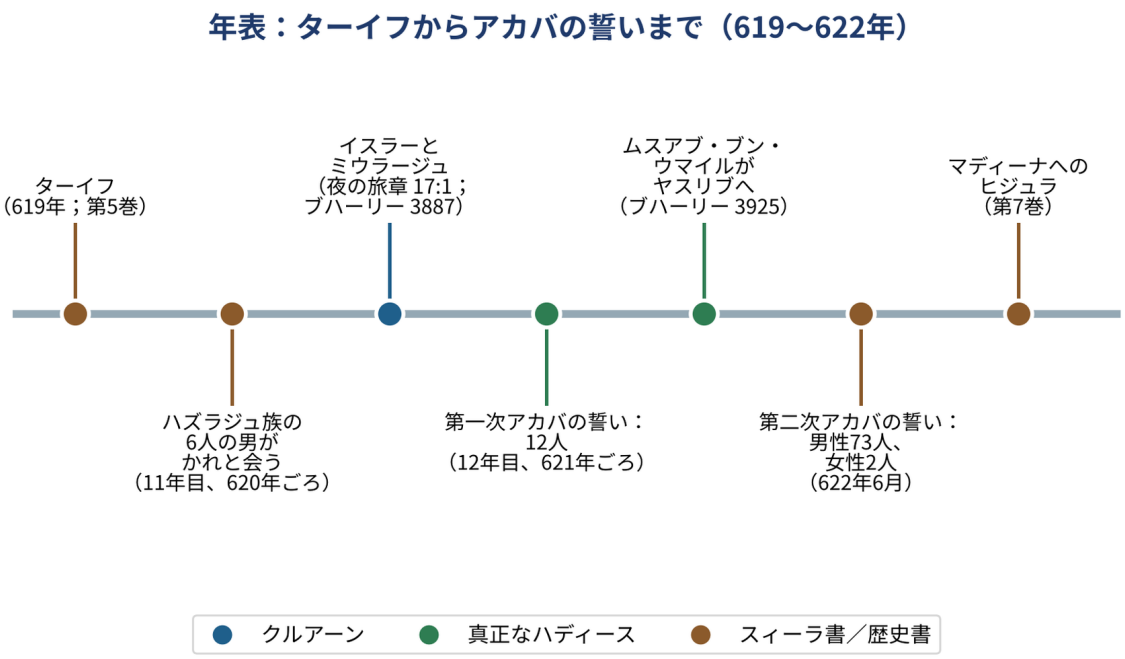


図 1：ターイフからアカバの誓いまでの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

ターイフの後：支援者を求めて

ターイフの後も、アッラーの使徒 ﷺ は望みを捨てられませんでした。巡礼の季節ごとに、アラブの諸部族がマッカやウカーズ、マジャンナ、ズル・マジャーズの市にやって来ると、かれは天幕から天幕へと訪ね歩き、イスラームを勧め、使命を伝えるための保護を求められました。

ジャービル・ブン・アブディッラー رضي الله عنهما によれば、かれは宿営地で人々に自らを示し、こう言われました。「**自分の部族のもとへ私を連れて行ってくれる者はいないか。クライシュ族は、私が主の言葉を伝えることを妨げているのだ**」（『スナン・アビー・ダーウード』4734、真正）。

> **スィーラの注：拒んだ部族**
>
> スィーラ書によれば、かれは**キンダ族、カルブ族、アーミル・ブン・サアサア族、ハニーファ族**などの部族を訪ねられました。多くは拒み、丁寧に断る者もいれば、乱暴に断る者もいました。アーミル族は、かれの後に指導権を自分たちに譲るという条件で同意したと伝えられていますが、かれは、その事はアッラーのものであり、アッラーが望む者に置かれるのだと答えられました。
>
> また、アブー・ラハブはかれの後をつけ回し、かれを信じないよう人々に言いふらしたと伝えられています。

教訓：宣教は**権力の駆け引き**にはなりません。かれは、どれほど支援を必要としていても、条件付きの支援を断られました。

夜の旅と昇天はいつ起きたのか

クルアーンと真正なハディースは、夜の旅と昇天の**日付を述べていません**。そのため、スィーラ学者の見解は大きく分かれています。

見解	説明
ラジャブ月 27 日	有名で多くの国で記念されている見解。真正な伝承に基づくものではない。
ヒジュラの約 1 年前	多くのスィーラ学者の見解。ウィキペディアは西暦 621 年ごろとしている。
ラビーウ・アル＝アウワル月またはラマダーン月	イブン・サアドらが挙げている。
ハディージャの逝去の前	一部の学者。ハディージャの存命中にすでに礼拝が義務とされていたため。

資料：ウィキペディア「Isra' and Mi'raj」。

日付よりも大切なのは**その教訓**です。学者たちは、ラジャブ月 27 日の夜に特別な崇拝行為を定めた真正な根拠はないと注意しています。スィーラを学び、礼拝を守ることこそ、この出来事を尊ぶ最善の方法です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「かれに栄光あれ…」

クルアーンは、この出来事にちなんで名づけられた章の最初の節で、夜の旅を記録しています。

夜の旅章 17:1

سُبۡحَٰنَ ٱلَّذِيٓ أَسۡرَىٰ بِعَبۡدِهِۦ لَيۡلٗا مِّنَ ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡحَرَامِ إِلَى ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡأَقۡصَا
ٱلَّذِي بَٰرَكۡنَا حَوۡلَهُۥ لِنُرِيَهُۥ مِنۡ ءَايَٰتِنَآۚ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلۡبَصِيرُ ١

かれに栄光あれ。そのしもべを、（マッカの）聖なるマスジドから、われが周囲を祝福した至遠の（エルサレムの）マスジドに、夜間、旅をさせた。わが種々の印をかれ（ムハンマド）に示すためである。本当にかれこそは全聴にして全視であられる。

訳：三田了一 — quran.com/17:1

節 17:1 の解説

この節は「**かれに栄光あれ。そのしもべを…夜間、旅をさせた**」で始まります。イブン・カスィールは、この出来事が**人間の力を超えている**ため、アッラーがご自身を清める**タスビーフ**（讃美）で始められたのであり、それができるのはアッラーだけだと説明しています。「**そのしもべ**」という言葉は、旅が**体と魂**の両方によるものであったことを示します。「しもべ」とは両方を指すからです。『タフスィール・イブン・カスィール』17:1。

節の中の言葉	教訓
「かれに栄光あれ」	この出来事は奇跡であり、理性だけで測ってはならない。
「そのしもべ」	アッラーの使徒 ﷺ にとって最も尊い称号は「アッラーのしもべ」である。
「夜間」	それは一夜のうちのわずかな時間に起きた。
「聖なるマスジドから至遠のマスジドに」	二つの聖なるモスクを結ぶ。イスラームは預言者たちの使命の継承者である。
「われが周囲を祝福した」	シャームとパレスチナの地は祝福されている。
「われの印をかれに示すため」	旅の目的：使徒の確信を強めること。

教訓：真の栄誉とは**アッラーのしもべであること**です。生涯で最も尊い夜に、アッラーの使徒 ﷺ は「しもべ」という称号で呼ばれました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

切り開かれ、信仰で満たされた胸

マーリク・ブン・サアサア رضى الله عنه のハディースは、驚くべき出来事から始まります。アッラーの使徒 ﷺ がカアバのそばの**ハティーム**（ヒジュル）で横になっておられたとき、天使がやって来て**かれの胸を切り開き**、心臓を取り出して、信仰で満ちた金の器で洗い、元に戻しました（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。

同じ出来事は、かれが幼いころサアド族の村でも起きていました（第1巻；『サヒーフ・ムスリム』162）。学者たちは、この二度目の切開は偉大な旅のための**準備**であったと説明しています。天の世界を目の当たりにし、礼拝の命令をじかに受けるためです。

信仰の座としての心

かれの心は洗われ、**信仰と英知**で満たされました。これは、どんな大きな務めにも最も大切な準備は**心を清めること**だと教えています。アッラーの使徒 ﷺ は、体の中には一片の肉があり、それが健全であれば体全体が健全になる、それは心である、と言われました（『サヒーフ・ブハーリー』52）。

この出来事は**目に見えない世界（ガイブ）**のことであり、伝えられたとおりに信じなければなりません。普通の医学の尺度で理性に無理に解釈させる必要はないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ブラーク

真正なハディースは、ブラークを**白い乗り物**で、**ラバより小さくロバより大きく**、**視線の届く果てに**一歩一歩を置くものと描いています（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。学者たちは「ブラーク」という名を、その速さから**バルク**（稲妻）と結びつけています。

描写	評価
白く、ラバとロバの中間の大きさ	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3887）
一歩が視線の届く果てまで	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3887）
エルサレムの輪につながれた	真正（『サヒーフ・ムスリム』162）
女性の顔をした翼のある馬	真正なハディースに根拠はない。後代の芸術による描写

広く出回っている、人間の頭をもつ翼のある馬としてのブラークの絵は、**真正なハディースに基づいていません**。後代の芸術の創作です。私たちは、アッラーの使徒ﷺご自身が述べられた描写を信じれば十分です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

エルサレムにて：預言者たちの導師

『サヒーフ・ムスリム』のアナス・ブン・マーリク رضى الله عنه のハディースは、夜の旅について詳しく加えています。かれはブラークに乗って**バイト・アル＝マクディス**（エルサレム）に着き、預言者たちが乗り物をつないでいた**輪にそれをつなぎ**、それからモスクに入って**二ラクアの礼拝**をされました（『サヒーフ・ムスリム』162）。

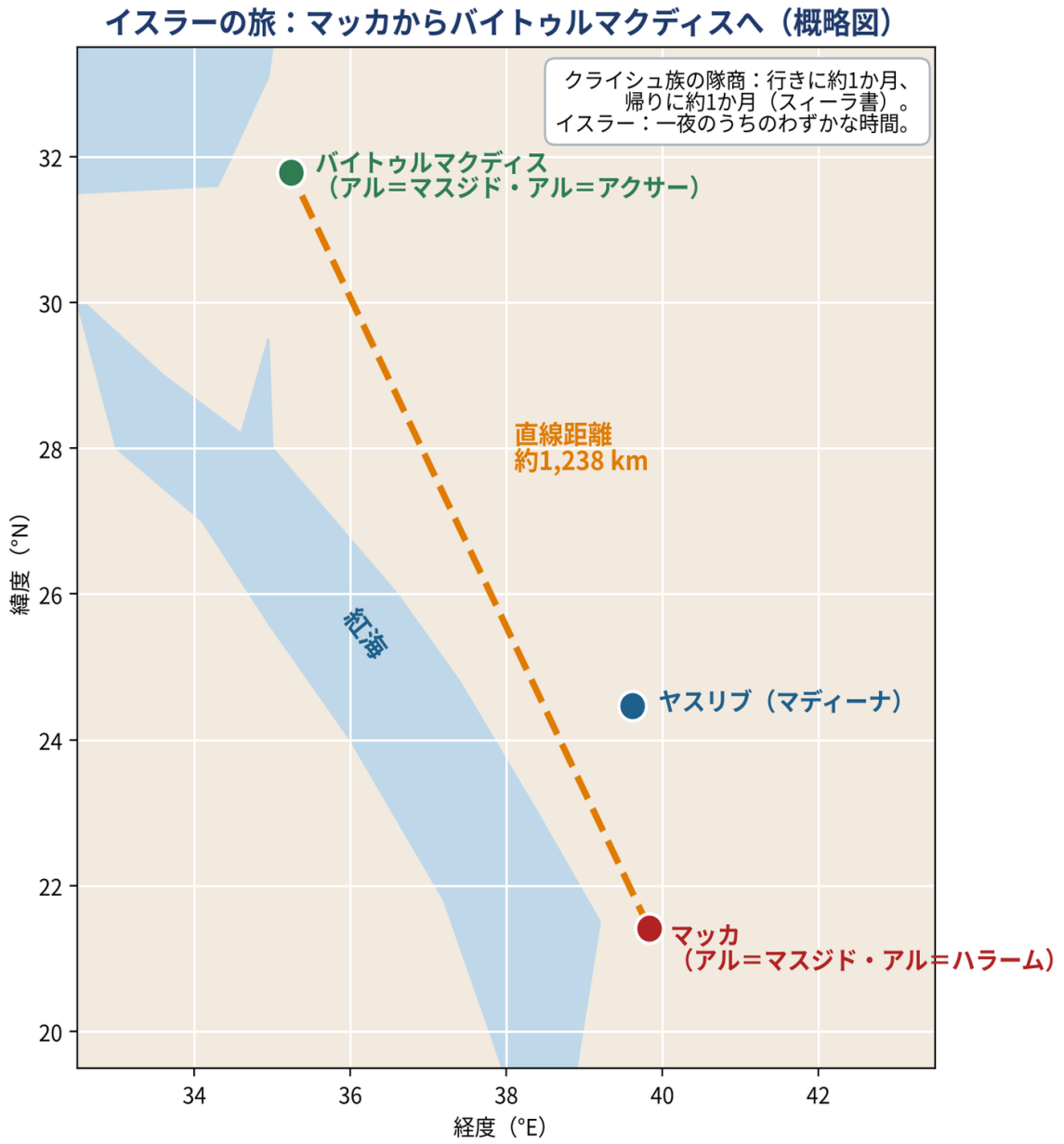
またアブー・フライラ رضى الله عنه によれば、かれはこう言われました。「**私は預言者たちの一団の中にいた…。そして礼拝の時が来たので、私がかれらの導師（イマーム）を務めた**」（『サヒーフ・ムスリム』172）。

預言者たちの導師を務めたことの意味

学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ が預言者たちの導師を務められたことは、以前のすべての使命に対する**かれの使命の指導的地位**を示すと説明しています。預言者たちの宗教は一つ――**唯一神信仰（タウヒード）**――であり、預言者ムハンマド ﷺ はかれらの**封印**です（部族連合章 33:40）。

教訓：ムスリムは、イブラーヒーム、ムーサー、イーサーなど、すべての預言者 ***pewaris*** の継承者です。だからこそ、エルサレムとイスラエルの子孫の預言者たちを愛することは、ムスリムの信仰の一部なのです。

アクサー・モスク



座標と海岸線は概算。距離は座標から計算。出典：ウィキペディア「Al-Aqsa Mosque」。

図 2：マッカからエルサレムへの夜の旅（概略図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アクサー・モスクに関する事実

項目	説明
区域	「アクサー・モスク」は、約 14.4 ヘクタールの塀で囲まれた区域全体（アル＝ハラム・アッ＝シャリーフ）を指す。
キブリー・モスク	南側にあるモスクの建物。約 5,000 人の礼拝者を収容できる。
岩のドーム	預言者 ﷺ の逝去から数十年後、ウマイヤ朝（アブドゥルマリク）の時代に建てられた。
立場	マッカとマディーナに次ぐ、イスラームで三番目に神聖な場所。
最初のキブラ	ムスリムはヒジュラの後、約 16 か月か 17 か月のあいだ、この方角に向かって礼拝した（『サヒーフ・ブハーリー』40）。

資料：ウィキペディア「Al-Aqsa Mosque」；『サヒーフ・ブハーリー』40。

アッラーの使徒 ﷺ はまた、アクサー・モスクを、マスジド・ハラームと預言者のモスクとともに、訪れるために旅することが勧められる**三つのモスク**の一つに挙げられました（『サヒーフ・ブハーリー』1189）。

教訓：夜の旅は、ムスリムの心を**エルサレム**と永遠に結びつけました。アクサーを守り、その平安を祈ることは、この出来事が遺したものの一部です。

昇天：マーリク・ブン・サアサアのハディース

『サヒーフ・ブハーリー』で昇天について最も詳しいハディースは、**アナス・ブン・マーリク**が**マーリク・ブン・サアサア** رضي الله عنهما から伝えたものです。カアバから第七天、スィドラ・アル＝ムンタハー、そして礼拝の制定に至る旅を語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3887 番

حَدَّثَنَا هُدْبَةُ بْنُ خَالِدٍ، حَدَّثَنَا هَمَّامُ بْنُ يَحْيَى، حَدَّثَنَا قَتَادَةُ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، عَنْ مَالِكِ بْنِ صَعْصَعَةَ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّ نَبِيَّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حَدَّثَهُمْ عَنْ لَيْلَةِ أُسْرِيَ بِهِ «بَيْنَمَا أَنَا فِي الْحَطِيمِ ـ وَرُبَّمَا قَالَ فِي الْحِجْرِ ـ مُضْطَجِعًا، إِذْ أَتَانِي آتٍ فَقَدَّ ـ قَالَ وَسَمِعْتُهُ يَقُولُ فَشَقَّ ـ مَا بَيْنَ هَذِهِ إِلَى هَذِهِ ـ فَقُلْتُ لِلْجَارُودِ وَهْوَ إِلَى جَنْبِي مَا يَعْنِي بِهِ قَالَ مِنْ ثُغْرَةِ نَحْرِهِ إِلَى شِعْرَتِهِ، وَسَمِعْتُهُ يَقُولُ مِنْ قَصِّهِ إِلَى شِعْرَتِهِ ـ فَاسْتَخْرَجَ قَلْبِي، ثُمَّ أُتِيتُ بِطَسْتٍ مِنْ ذَهَبٍ مَمْلُوءَةٍ إِيمَانًا، فَغُسِلَ قَلْبِي ثُمَّ حُشِيَ، ثُمَّ أُوتِيتُ بِدَابَّةٍ دُونَ الْبَغْلِ وَفَوْقَ الْحِمَارِ أَبْيَضَ». ـ فَقَالَ لَهُ الْجَارُودُ هُوَ الْبُرَاقُ يَا أَبَا حَمْزَةَ قَالَ أَنَسٌ نَعَمْ، يَضَعُ خَطْوَهُ عِنْدَ أَقْصَى طَرْفِهِ ـ «فَحُمِلْتُ عَلَيْهِ، فَانْطَلَقَ بِي جِبْرِيلُ حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ الدُّنْيَا فَاسْتَفْتَحَ، فَقِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ فَفَتَحَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ، فَإِذَا فِيهَا آدَمُ، فَقَالَ هَذَا أَبُوكَ آدَمُ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ السَّلاَمَ ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالاِبْنِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ صَعِدَ حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ الثَّانِيَةَ فَاسْتَفْتَحَ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ. فَفَتَحَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ، إِذَا يَحْيَى وَعِيسَى، وَهُمَا ابْنَا الْخَالَةِ قَالَ هَذَا يَحْيَى وَعِيسَى فَسَلِّمْ عَلَيْهِمَا. فَسَلَّمْتُ فَرَدَّا، ثُمَّ قَالاَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ صَعِدَ بِي إِلَى السَّمَاءِ الثَّالِثَةِ، فَاسْتَفْتَحَ قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ. فَفَتَحَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ إِذَا يُوسُفُ. قَالَ هَذَا يُوسُفُ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ.

فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ، ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ، ثُمَّ صَعِدَ بِي حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ الرَّابِعَةَ، فَاسْتَفْتَحَ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ أَوَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ. فَفُتِحَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ إِلَى إِدْرِيسَ قَالَ هَذَا إِدْرِيسُ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ صَعِدَ بِي حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ الْخَامِسَةَ، فَاسْتَفْتَحَ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ صلى الله عليه وسلم. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ. فَلَمَّا خَلَصْتُ فَإِذَا هَارُونُ قَالَ هَذَا هَارُونُ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ صَعِدَ بِي حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ السَّادِسَةَ، فَاسْتَفْتَحَ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ مَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قَالَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ، فَإِذَا مُوسَى قَالَ هَذَا مُوسَى فَسَلِّمْ عَلَيْهِ، فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. فَلَمَّا تَجَاوَزْتُ بَكَى، قِيلَ لَهُ مَا يُبْكِيكَ قَالَ أَبْكِي لأَنَّ غُلاَمًا بُعِثَ بَعْدِي، يَدْخُلُ الْجَنَّةَ مِنْ أُمَّتِهِ أَكْثَرُ مَنْ يَدْخُلُهَا مِنْ أُمَّتِي. ثُمَّ صَعِدَ بِي إِلَى السَّمَاءِ السَّابِعَةِ، فَاسْتَفْتَحَ جِبْرِيلُ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ. قَالَ نَعَمْ. قَالَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ فَلَمَّا خَلَصْتُ، فَإِذَا إِبْرَاهِيمُ قَالَ هَذَا أَبُوكَ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. قَالَ فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ، فَرَدَّ السَّلاَمَ قَالَ مَرْحَبًا بِالاِبْنِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ رُفِعَتْ لِي سِدْرَةُ الْمُنْتَهَى، فَإِذَا نَبِقُهَا مِثْلُ قِلاَلِ هَجَرَ، وَإِذَا وَرَقُهَا مِثْلُ آذَانِ الْفِيَلَةِ قَالَ هَذِهِ سِدْرَةُ الْمُنْتَهَى، وَإِذَا أَرْبَعَةُ أَنْهَارٍ نَهْرَانِ بَاطِنَانِ، وَنَهْرَانِ ظَاهِرَانِ. فَقُلْتُ مَا هَذَانِ يَا جِبْرِيلُ قَالَ أَمَّا الْبَاطِنَانِ، فَنَهَرَانِ فِي الْجَنَّةِ، وَأَمَّا الظَّاهِرَانِ فَالنِّيلُ وَالْفُرَاتُ. ثُمَّ رُفِعَ لِي الْبَيْتُ الْمَعْمُورُ، ثُمَّ أُتِيتُ بِإِنَاءٍ مِنْ خَمْرٍ، وَإِنَاءٍ مِنْ لَبَنٍ وَإِنَاءٍ مِنْ عَسَلٍ، فَأَخَذْتُ اللَّبَنَ، فَقَالَ هِيَ الْفِطْرَةُ أَنْتَ عَلَيْهَا وَأُمَّتُكَ. ثُمَّ فُرِضَتْ عَلَيَّ الصَّلَوَاتُ خَمْسِينَ صَلاَةً كُلَّ يَوْمٍ. فَرَجَعْتُ فَمَرَرْتُ عَلَى مُوسَى، فَقَالَ بِمَا أُمِرْتَ قَالَ أُمِرْتُ بِخَمْسِينَ صَلاَةً كُلَّ يَوْمٍ. قَالَ إِنَّ أُمَّتَكَ لاَ تَسْتَطِيعُ خَمْسِينَ صَلاَةً كُلَّ يَوْمٍ، وَإِنِّي وَاللَّهِ قَدْ جَرَّبْتُ النَّاسَ قَبْلَكَ، وَعَالَجْتُ بَنِي إِسْرَائِيلَ أَشَدَّ

الْمُعَالَجَةَ، فَارْجِعْ إِلَى رَبِّكَ فَاسْأَلْهُ التَّخْفِيفَ لأُمَّتِكَ. فَرَجَعْتُ، فَوَضَعَ عَنِّي عَشْرًا، فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى فَقَالَ مِثْلَهُ، فَرَجَعْتُ فَوَضَعَ عَنِّي عَشْرًا، فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى فَقَالَ مِثْلَهُ، فَرَجَعْتُ فَوَضَعَ عَنِّي عَشْرًا، فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى فَقَالَ مِثْلَهُ، فَرَجَعْتُ فَأُمِرْتُ بِعَشْرِ صَلَوَاتٍ كُلَّ يَوْمٍ، فَرَجَعْتُ فَقَالَ مِثْلَهُ، فَرَجَعْتُ فَأُمِرْتُ بِخَمْسِ صَلَوَاتٍ كُلَّ يَوْمٍ، فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى، فَقَالَ بِمَا أُمِرْتَ قُلْتُ أُمِرْتُ بِخَمْسِ صَلَوَاتٍ كُلَّ يَوْمٍ. قَالَ إِنَّ أُمَّتَكَ لاَ تَسْتَطِيعُ خَمْسَ صَلَوَاتٍ كُلَّ يَوْمٍ، وَإِنِّي قَدْ جَرَّبْتُ النَّاسَ قَبْلَكَ، وَعَالَجْتُ بَنِي إِسْرَائِيلَ أَشَدَّ الْمُعَالَجَةِ، فَارْجِعْ إِلَى رَبِّكَ فَاسْأَلْهُ التَّخْفِيفَ لأُمَّتِكَ. قَالَ سَأَلْتُ رَبِّي حَتَّى اسْتَحْيَيْتُ، وَلَكِنْ أَرْضَى وَأُسَلِّمُ ـ قَالَ ـ فَلَمَّا جَاوَزْتُ نَادَى مُنَادٍ أَمْضَيْتُ فَرِيضَتِي وَخَفَّفْتُ عَنْ عِبَادِي».

訳：

アナス・ブン・マーリクがマーリク・ブン・サアサア رضى الله عنهما から伝えるところによれば、アッラーの預言者 ﷺ は、自分が旅をさせられた夜のことをかれらに語られた。**「私がハティームで――あるいはヒジュルで、と言われた――横になっていると、突然ある者が私のもとに来て、（私の胸を）のどの付け根から腹の下まで切り開いた。かれは私の心臓を取り出し、それから信仰で満ちた金の器が私のもとに運ばれ、私の心臓は洗われて満たされ、元に戻された。それから、ラバより小さくロバより大きい白い乗り物が私のもとに連れて来られた」**――それはブラークであり、視線の届く果てに一歩を置くものである。**「私はそれに乗せられ、ジブリールが私を連れて行き、ついに最も近い天に着いた。かれが門を開けるよう求めると、『誰か』と尋ねられた。かれは『ジブリールだ』と答えた。『一緒にいるのは誰か』と尋ねられると、『ムハンマドだ』と答えた。『かれは（迎えに）遣わされたのか』と尋ねられ、『そうだ』と答えた。すると『かれを歓迎する。かれの訪れは何とすばらしい訪れか』と言われた。門が開かれると、そこにはアーダムがいた。ジブリールは『これはあなたの父アーダムです。かれに挨拶しなさい』と言った。私が挨拶すると、かれは挨拶を返し、『正しい息子よ、正しい預言者よ、ようこそ』と言った。」** 同じようにして、かれは第二天に昇って**ヤフヤーとイーサー**（二人のいとこ）に、第三天で**ユースフ**に、第四天で**イドリース**に、第五天

で**ハールーン**に、第六天で**ムーサー**に会われた。皆が「正しい兄弟よ、正しい預言者よ、ようこそ」と言った。**「私がかれのもとを通り過ぎると、ムーサーは泣いた。『何があなたを泣かせるのか』と尋ねられると、かれは『私の後に遣わされた一人の若者がおり、楽園に入るかれの民は私の民より多いので泣いているのです』と答えた。」** 第七天でかれは**イブラーヒーム**に会われ、かれは「正しい息子よ、正しい預言者よ、ようこそ」と言った。**「それから、スィドラ・アル＝ムンタハーが私の前に示された。その実はハジャルのかめのようで、その葉は象の耳のようであった。そこには四つの川があり、二つは隠れた川、二つは表に見える川であった。私が『ジブリールよ、これは何か』と尋ねると、かれは『二つの隠れた川は楽園の二つの川であり、二つの表に見える川はナイル川とユーフラテス川です』と答えた。それから、アル＝バイト・アル＝マアムールが私の前に示された。それから、ぶどう酒の器と乳の器と蜂蜜の器が私のもとに運ばれた。私は乳を取った。ジブリールは『それはあなたとあなたの民が拠って立つ天性（フィトラ）です』と言った。それから、私に毎日五十回の礼拝が課された。」** 下る途中、ムーサーはかれに忠告した。**「あなたの民は毎日五十回の礼拝に耐えられません。アッラーにかけて、私はあなたより前に人々を試し、イスラエルの子孫に大いに苦労しました。主のもとに戻って、あなたの民のために軽減を願いなさい。」** かれは何度も戻り、十ずつ減らされて、やがて十になり、そして**毎日五回の礼拝**となった。ムーサーはさらに忠告したが、かれは言われた。**「私は恥ずかしくなるほど主に願った。だが私は満足し、身をゆだねる。」「私が立ち去ろうとすると、一つの呼び声が聞こえた。『われはわが義務を定め、わがしもべたちの（負担を）軽くした。』」**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：フドバ・ブン・ハーリド ← ハンマーム・ブン・ヤフヤー ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク ← マーリク・ブン・サアサア رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、昇天の章、ハディース第 3887 番。ムスリム（第 164 番）も伝えている。第二天から第六天までの部分は、言葉が繰り返されるため要約して訳した。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3887

このハディースの教訓

天の門での礼儀に注目してください。ジブリールは許しを求め、誰か、誰と一緒かを尋ねられ、確認されてはじめて門が開かれました。最も尊い旅においてさえ、礼儀と許可は守られたのです。

預言者たちの**迎え方**にも注目してください。アーダムとイブラーヒームは、かれが自分たちの子孫であるため「**正しい息子**」として迎え、ほかの預言者たちは「**正しい兄弟**」として迎えました。預言者たちは一つの家族なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

七つの天の預言者たち



図 3：七つの天で出会った預言者たち（概略図）。

スィーラ学者たちは、それぞれの預言者との出会いの英知について思いをめぐらせてきました。以下の説明の一部は**学者たちの省察**であって聖典の明文ではありませんが、使命の連続性を理解する助けになります。

天と預言者	省察
1 — アーダム عَلَيْهِ السَّلَامُ	人類の父。楽園から出され、その後悔悟を受け入れられた――故郷を追われたかれと同じように。
2 — ヤフヤーとイーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ	自分の民から反対され、敵視された。
3 — ユースフ عَلَيْهِ السَّلَامُ	兄弟たちから不当な扱いを受け、のちにかれらを赦した。
4 — イドリース عَلَيْهِ السَّلَامُ	「高い所」に上げられた（マルヤム章 19:57）。
5 — ハールーン عَلَيْهِ السَّلَامُ	民に愛され、宣教において兄を助けた。
6 — ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ	民の厄介な要求に最も多く向き合った使徒。
7 — イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ	預言者たちの父。アル＝バイト・アル＝マアムールに背をもたせていた（『サヒーフ・ムスリム』162）。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ が経験したあらゆる試練は、以前の預言者たちも経験していました。この出会いは、悲しみの年の後の**慰め**だったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

預言者ムーサーの涙

昇天のハディースの中でとても心を打つ瞬間は、アッラーの使徒 ***tangisan Nabi Musa*** がそばを通り過ぎたときの預言者ムーサーの涙 ﷺ です。「私の後に遣わされた一人の若者がおり、楽園に入るかれの民は私の民より多いので泣いているのです」（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。

学者たちは、この涙は**妬みではない**と説明しています。預言者たちはそのような性質から清められているからです。それは、多くが拒んだ自分の民への**愛と悲しみ**の涙であり、もっと多くの民が救われてほしいという切望の涙でした。

ムーサー：ムハンマドの民への助言者

さらに驚くべきことに、泣いたその預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ こそが、のちにアッラーの使徒 ***menasihati*** に、礼拝の軽減を願いに戻るよう忠告したのです――そうして五十が五になりました。イスラエルの子孫との経験が、ムハンマド ﷺ の民への慈悲となったのです。

教訓：**先人の経験**は宝です。私たちが歩む道をすでに歩んだ人の助言を大切にし、他の人が得た良いものを妬んではいけません。

スィドラ・アル＝ムンタハー

旅の頂点で、アッラーの使徒 ﷺ は**スィドラ・アル＝ムンタハー**――果ての境にあるスィドラ（ナツメ）の木、被造物が越えることのない境界――に着かれました。アッラーは星章でそれを描いておられます。

星章 53:13–18

وَلَقَدْ رَءَاهُ نَزْلَةً أُخْرَىٰ ﴿١٣﴾

本当にかれ（ムハンマド）は、再度の降下においても、かれ（ジブリール）を見たのである。

عِندَ سِدْرَةِ ٱلْمُنتَهَىٰ ﴿١٤﴾

（誰も越せない）涯にある、スィドラ木の傍で。

عِندَهَا جَنَّةُ ٱلْمَأْوَىٰٓ ﴿١٥﴾

そのそばに終の住まいの楽園がある。

إِذْ يَغْشَى ٱلسِّدْرَةَ مَا يَغْشَىٰ ﴿١٦﴾

覆うものがスィドラ木をこんもりと覆う時。

مَا زَاغَ ٱلْبَصَرُ وَمَا طَغَىٰ ﴿١٧﴾

（かれの）視線は吸い寄せられ、また（不躾に）度を過ごすこともない。

لَقَدْ رَأَىٰ مِنْ ءَايَٰتِ رَبِّهِ ٱلْكُبْرَىٰٓ ﴿١٨﴾

かれは確かに、主の最大の印を見たのである。

訳：三田了一 — quran.com/53:13-18

節 53:13–18 の解説

アッラーはかれの視線の正確さを称えておられます。「**（かれの）視線は外れず、また度も過ごさなかった**」。イブン・カスィールは、かれの視線は**右にも左にもそれず**、命じられたことを越えなかったと説明しています――アッラーの偉大さの前での完全な**礼儀と服従**の姿です。『タフスィール・イブン・カスィール』53:17。

項目	説明
見られたのは誰か（53:13）	アーイシャとイブン・マスウードによれば、かれはジブリールの本来の姿を二度目に見られた（『サヒーフ・ムスリム』177；『サヒーフ・ブハーリー』4856）。
木の特徴	その実はハジャルのかめのようで、その葉は象の耳のよう（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。
覆われる（53:16）	言い表せない色と事物に覆われていた（『サヒーフ・ムスリム』162）。
ジャンナ・アル＝マアワー（53:15）	住まいの楽園がそのそばにある。
最大の印（53:18）	かれは主の最も偉大な印のいくつかを見られた。

教訓：**礼儀**は完全さのしるしです。最も偉大な瞬間に、アッラーの使徒 ﷺ の視線は抑制されていました――信仰者があらゆる状況で視線を守るべきように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アル＝バイト・アル＝マアムールと四つの川

スィドラ・アル＝ムンタハーの後、**アル＝バイト・アル＝マアムール**がかれの前に示されました。同じハディースの別の伝承で、ジブリールはこう説明しています。**「これはアル＝バイト・アル＝マアムールです。毎日七万人の天使がその中で礼拝し、出て行くと二度と戻って来ません」**（『サヒーフ・ブハーリー』3207）。

イブン・カスィールは、アル＝バイト・アル＝マアムールは地上のカアバの**真上にあたる**ところにあり、アッラーは山章（52:4）でそれにかけて誓っておられると述べています。地上のカアバは人々のキブラであり、天のアル＝バイト・アル＝マアムールは天使たちの崇拝の場です。

四つの川

かれはまた、スィドラ・アル＝ムンタハーのそばで**四つの川**を見られました。二つは隠れた川――楽園の川――、二つは表に見える川、すなわち**ナイル川とユーフラテス川**です。学者たちは、これはこの二つの川の**祝福**と、その恵みの源がアッラーにあることを示すと説明しています。地上で知られている地理的な水源を否定するものではありません。

教訓：目に見えない世界は**広大で、崇拝に満ちています**。毎日七万人の天使がアル＝バイト・アル＝マアムールで崇拝し、二度と戻らないのなら、私たちの崇拝は何と小さいことでしょう。わずかな礼拝を守ることがどれほど必要でしょうか。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

乳とぶどう酒と天性

その旅の中で、アッラーの使徒 ﷺ はいくつかの飲み物の器――**ぶどう酒、乳、蜂蜜**――を差し出され、**乳**を選ばれました。ジブリールは言いました。「**それはあなたとあなたの民が拠って立つ天性（フィトラ）です**」（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。

アブー・フライラ رضي الله عنه の伝承では、ジブリールはこう加えています。「**あなたを天性へと導かれたアッラーに称賛あれ。もしぶどう酒を選んでいたなら、あなたの民は迷っていたでしょう**」（『サヒーフ・ブハーリー』3394）。同じハディースは、かれが見たとおりの預言者ムーサー、イーサー、イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の姿も描いています。

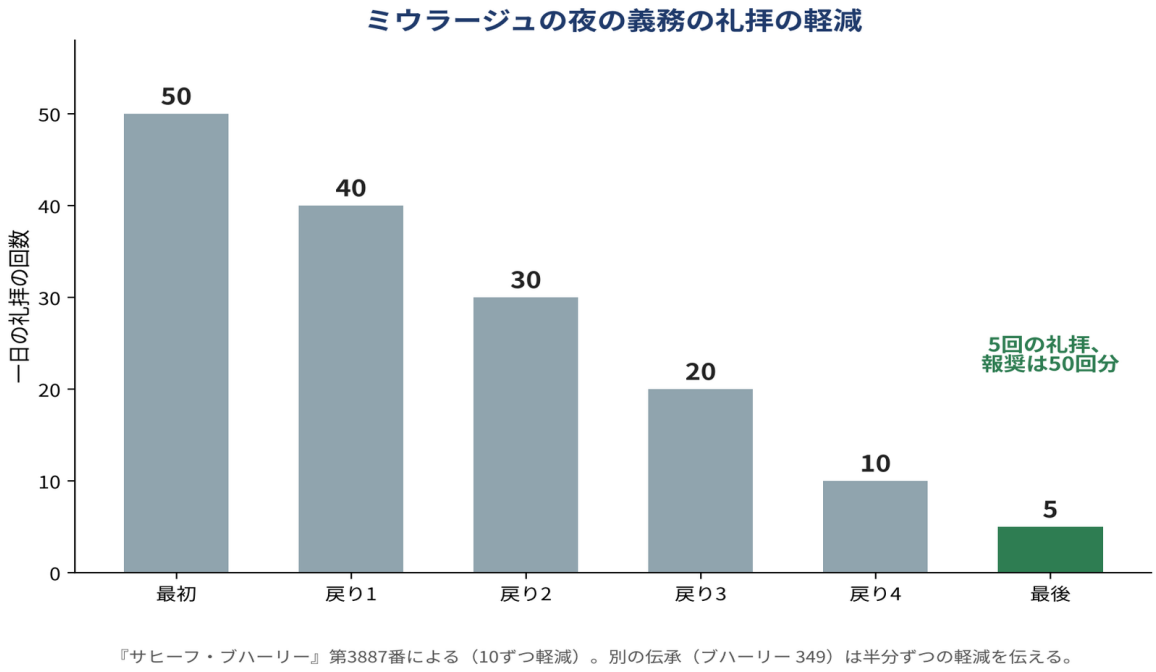
天性（フィトラ）とは何か

フィトラとは、アッラーが人間をそれに基づいて創られた清らかな本来の状態です（ビザンチン章 30:30）。乳は**清く、栄養があり、自然な**飲み物で、赤ん坊の最初の食べ物です。一方ぶどう酒は**理性を損ない**、さまざまな悪の源となります。

この選択は**イスラームという宗教**の象徴となりました。天性にかない、理性と体と魂を守る宗教です。ぶどう酒はのちにマディーナで段階的に禁じられました。

一日五回の礼拝という贈り物

昇天の最大の贈り物は**礼拝**です。それは、ジブリールが地上に降りるという仲立ちなしに**天でじかに**義務とされた唯一の崇拝行為です。初めは一日五十回でしたが、その後五回にまで減らされました（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。



『サヒーフ・ブハーリー』第3887番による（10ずつ軽減）。別の伝承（ブハーリー 349）は半分ずつの軽減を伝える。

図 4：昇天の夜における義務の礼拝の軽減。

アブー・ザッル رضي الله عنه の伝承では、アッラーはこう言われました。「**それは五回であり、それは五十回である。わが言葉は変わらない**」（『サヒーフ・ブハーリー』349）。学者たちは、行いとしては五回だが、**報奨としては五十回**であると説明しています。

スィドラ・アル＝ムンタハーでの三つの贈り物

アブドッラー・ブン・マスウード رضي الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ はその夜**三つのもの**を授けられました。**一日五回の礼拝**、**雌牛章の結びの節**、そして何ものもアッラーに並べなかったかれの民のための**大罪の赦し**です（『サヒーフ・ムスリム』173）。

礼拝の地位	根拠
天で、仲立ちなしに義務とされた	『サヒーフ・ブハーリー』3887
宗教の柱であり、最初に清算される行い	『スナン・アッ＝ティルミズィー』413（真正）
信仰と不信仰を分けるもの	『サヒーフ・ムスリム』82
目の慰め――アッラーの使徒 ﷺ	『スナン・アン＝ナサーイー』3939（真正）

教訓：礼拝は**信仰者の「ミウラージュ」（昇天）**――主に親しく語りかけるひとときです。第七天から持ち帰られた贈り物を、地上でおろそかにしてはなりません。

かれはアッラーを見られたのか

この問題は教友の時代から論じられてきました。かれらの見解は真正な伝承に基づいています。

見解	根拠
かれは目でアッラーを見られなかった	アーイシャ：「ムハンマドが主を見たと言う者は、偽りを言ったのです」（『サヒーフ・ブハーリー』4855）。
「光である。どうしてかれを見ることができようか」	アブー・ザッルへのかれの答え（『サヒーフ・ムスリム』178）。
かれは心で見られた	イブン・アッバース：「かれは心で二度かれを見た」（『サヒーフ・ムスリム』176）。
スィドラ・アル＝ムンタハーで見られたのはジブリールである	星章 53:13 についてのアーイシャとイブン・マスウードの説明（『サヒーフ・ムスリム』177）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

見解を調和させる

イブン・タイミーヤやイブン・ハジャルを含む多くの学者は、これらの伝承を調和させています。かれは、アーイシャが言ったように、現世で**肉眼でアッラーを見られたのではなく**、イブン・アッバースが意味したのは**心による視覚**だということです。目でアッラーを見ることは、**来世**における信仰者への最大の恵みです（復活章75:22–23）。

教訓：目に見えない事柄では、**聖典の明文が止まるところで止まり**、教友たちの見解の違いを尊重し、啓示が述べていない描写を付け加えないことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

その夜のほかの光景

いくつかの真正なハディースは、その夜アッラーの使徒 ﷺ に示されたほかの光景を、かれの民への**教えと警告**として伝えています。

光景	典拠
銅の爪で自分の顔と胸をかきむしる人々――陰口を言い、他人の名誉を傷つける者たち	『スナン・アビー・ダーウード』4878（真正）
赤い砂丘のそばの墓の中で礼拝している預言者ムーサー	『サヒーフ・ムスリム』2375
地獄の番人マーリクがかれに挨拶した	『サヒーフ・ムスリム』172
ムーサー、イーサー、イブラーヒームの姿 عَلَيْهِ السَّلَامُ	『サヒーフ・ブハーリー』3394

銅の爪のハディースは、今日にとても深く関わっています。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه によれば、かれがかれらは誰かと尋ねると、ジブリールは答えました。**「かれらは人の肉を食べ（陰口を言い）、人々の名誉を傷つける者たちです」**（『スナン・アビー・ダーウード』4878）。

> **スィーラの注：弱い長い話**
>
> 昇天の夜に、さまざまな人々――姦通する者、利息を食う者、礼拝を怠る者など――がそれぞれ特定の方法で罰せられていたという、非常に詳しい長い話が有名です。ハディース学者によれば、こうした長い伝承の多くは**弱いか捏造**であり、アッラーの使徒 ﷺ に帰することはできません。
>
> 姦通する者や利息を食う者などへの罰について真正なものは、かれの**夢のハディース**という別の伝承にあり（『サヒーフ・ブハーリー』1386）、昇天の出来事の一部ではありません。

マッカの朝：クライシュ族の否認

その朝、アッラーの使徒 ﷺ は人々に旅のことを語られました。クライシュ族にとって、それは嘲りの種になりました。隊商で**行きに一か月、帰りに一か月**かかるシャームへの旅が、**一夜のうちのわずかな時間**に行われたと主張されたからです。

かれらは、商売の旅で見たことのある者もいたエルサレムの様子を説明してみよとかれに挑みました。アッラーの使徒 ﷺ ご自身が、起きたことを語っておられます。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3886 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ عُقَيْلٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، حَدَّثَنِي أَبُو سَلَمَةَ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، سَمِعْتُ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّهُ سَمِعَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ «لَمَّا كَذَّبَنِي قُرَيْشٌ قُمْتُ فِي الْحِجْرِ، فَجَلَا اللَّهُ لِي بَيْتَ الْمَقْدِسِ، فَطَفِقْتُ أُخْبِرُهُمْ عَنْ آيَاتِهِ وَأَنَا أَنْظُرُ إِلَيْهِ».

訳：

ジャービル・ブン・アブディッラー رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われるのを聞いた。「**クライシュ族が私を嘘つき呼ばわりしたとき、私はヒジュルに立った。するとアッラーがバイト・アル＝マクディスを私の前に現してくださったので、私はそれを見ながら、そのしるしをかれらに語り始めた。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アッ＝ライス ← ウカイル ← イブン・シハーブ ← アブー・サラマ・ブン・アブドッラフマーン ← ジャービル・ブン・アブディッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、夜の旅のハディースの章、ハディース第 3886 番。ムスリム（第 170 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3886

このハディースの教訓

このハディースは**奇跡の中の奇跡**を示しています。アッラーはエルサレムをかれの前に現し、かれらの質問に一つずつ答えられるようにされたのです。ムスリムの伝承では、かれは、注意して見ていなかったことを尋ねられたが、アッラーがそれを見せてくださったと述べておられます（『サヒーフ・ムスリム』172）。

教訓：真理は**質問**を恐れる必要がありません。アッラーの使徒 ﷺ は、嘲られると知りながらその出来事を隠さず、正直に伝えられました。そしてアッラーがかれを守られたのです。

アブー・バクル・アッ＝スィッディーク

スィーラの注：「かれがそう言ったのなら、それは真実だ」

スィーラ書によれば、多神教徒たちは**アブー・バクル**のもとへ急いで行き、言いました。「おまえの友は、昨夜エルサレムへ行き、夜明け前に戻って来たと言っているぞ！」アブー・バクルは尋ねました。「かれがそう言ったのか。」かれらは「そうだ」と答えました。かれは言いました。**「かれがそう言ったのなら、それは真実だ。私はそれよりもっと遠いこと――朝に夕に天から届く知らせ――についてもかれを信じているのだ。」**

この伝承はアル＝ハーキムが『アル＝ムスタドラク』に収めており、一部のハディース学者は**真正**と評価しています。それ以来、アブー・バクルは**アッ＝スィッディーク**（真実を固く信じる者）の称号で知られるようになりました。

参照：

ウィキペディア「アブー・バクル」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Bakr

アブー・バクルの信仰の論理

アブー・バクルの答えはとても賢明でした。かれはその出来事を普通の尺度で判断せず、**伝える人への信頼**によって判断したのです。ムハンマド ﷺ が毎日天から啓示を受けていると信じているのなら、一夜でエルサレムへ旅したことは、それより信じがたいことではありません。

アブー・バクルが**アッ＝スィッディーク**であることは、ウフド山が揺れたとき、アッラーの使徒 ﷺ ご自身が真正なハディースの中で述べておられます。「ウフドよ、静まれ。おまえの上には一人の預言者、一人のスィッディーク、二人の殉教者がいるのだから」（『サヒーフ・ブハーリー』3675）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：37 / 80

人々への試練

クルアーン自身が、この出来事は**試練**であったと述べています。信仰を強めた者もいれば、背教した者も、ますます嘲った者もいました。イブン・アッバース رضى الله عنهما はその節をこう説明しています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3888 番

حَدَّثَنَا الْحُمَيْدِيُّ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، حَدَّثَنَا عَمْرٌو، عَنْ عِكْرِمَةَ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ فِي قَوْلِهِ تَعَالَى {وَمَا جَعَلْنَا الرُّؤْيَا الَّتِي أَرَيْنَاكَ إِلاَّ فِتْنَةً لِلنَّاسِ} قَالَ هِيَ رُؤْيَا عَيْنٍ، أُرِيَهَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَيْلَةَ أُسْرِيَ بِهِ إِلَى بَيْتِ الْمَقْدِسِ. قَالَ وَالشَّجَرَةَ الْمَلْعُونَةَ فِي الْقُرْآنِ قَالَ هِيَ شَجَرَةُ الزَّقُّومِ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、至高なるアッラーの御言葉 {われがあなたに示した光景は、人びとへの試みのためだけであった} について言った。「**それは、エルサレムへ旅をさせられた夜にアッラーの使徒 ﷺ に示された、目による光景（夢ではない）である。**」 かれはまた言った。「そしてクルアーンの中で呪われた木とは、ザックームの木である。」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アル＝フマイディー ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← イクリマ ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、昇天の章、ハディース第 3888 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3888

このハディースの教訓

それが「**目による光景**」（ルウヤ・アイン）だというイブン・アッバースの説明は、夜の旅が夢ではなく**目覚めた状態で**起きたことの最も強い根拠の一つです。ただの夢なら、人々への試練にはならなかったでしょう。

教訓：**目に見えないものを信じること**は、神を畏れる者の第一の特質です（雌牛章2:3）。この出来事は、本当に信じる者と理性だけに従う者とをふるい分けました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

体と魂によってか

学者たちは、夜の旅と昇天が**体と魂**によるものか、魂だけによるものか、それとも夢の中のことかを論じてきました。

見解	説明
目覚めた状態で、体と魂によって	学者の大多数の見解。根拠は「そのしもべ」という言葉（17:1）、人々への試練（17:60）、イブン・アッバースの説明（『サヒーフ・ブハーリー』3888）。
魂だけ	ごく一部のサラフから伝えられる。大多数は退けている。
夢の中で	退けられる。夢ならクライシュ族が否認することはなく、試練にもならないため。

資料：イブン・カスィール、17:1 のタフスィール；ウィキペディア「Isra' and Mi'raj」（「ほとんどのイスラーム学者は、それが肉体的かつ霊的なものであったとする」）。

教訓：奇跡は**普通の自然法則**で測るものではありません。自然法則を創られたアッラーは、ご自身の使徒のためにそれを超えることがおできになります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

夜の旅と昇天の教訓

夜の旅と昇天は、非常に多くの教訓を残しました。その一部を挙げます。

教訓	説明
悲しみの後の慰め	悲しみの年に地上が狭く感じられた後、アッラーは天を開かれた。
礼拝の地位	天で義務とされた唯一の崇拝行為。
預言者たちの使命の一体性	かれは預言者たちの導師を務め、兄弟として迎えられた。
エルサレムの神聖さ	夜の旅の目的地、最初のキブラ、三つの主要なモスクの一つ。
天性の宗教イスラーム	ぶどう酒ではなく乳を選んだこと。
慈悲と軽減	五十が五になり、報奨は五十のまま。
信仰の試練	信じる者（アブー・バクル）もいれば、否認する者もいた。
アッラーの御前での礼儀	かれの視線はそれなかった（53:17）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

私たちの生活の中の夜の旅と昇天

夜の旅と昇天を記念する最善の方法は、特定の夜に根拠のない行いをすることではなく、**一日五回の礼拝を守ること**――天から持ち帰られた贈り物――を、その時刻どおりに、心をこめて、集団で行うことです。

信仰者が「アッラーフ・アクバル」と唱えるたびに、昇天の贈り物を受け取っているのです。平伏するたびに、かれは**主に最も近いところ**にいるのです（『サヒーフ・ムスリム』482）。

ヤスリブ：備えられた町

マッカがますます閉ざされていく中で、アッラーは北へ約340kmのところに別の町を用意しておられました。**ヤスリブ**、のちに**マディーナ**として知られる町です。そのアラブの住民は、兄弟関係にある二つの部族**アウス族**と**ハズラジュ族**から成り、ほかにいくつかのユダヤ教徒の部族がいました。

アウス族とハズラジュ族は長いあいだ互いに争っていました。最後の大きな戦いは、ヒジュラの数年前の**ブアースの戦い**でした。アーイシャ رضى الله عنها は、その悲劇の背後に大きな英知を見ていました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3777 番

حَدَّثَنِي عُبَيْدُ بْنُ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ كَانَ يَوْمُ بُعَاثَ يَوْمًا قَدَّمَهُ اللَّهُ لِرَسُولِهِ صلى الله عليه وسلم فَقَدِمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَقَدِ افْتَرَقَ مَلَؤُهُمْ، وَقُتِلَتْ سَرَوَاتُهُمْ، وَجُرِّحُوا، فَقَدَّمَهُ اللَّهُ لِرَسُولِهِ صلى الله عليه وسلم فِي دُخُولِهِمْ فِي الإِسْلاَمِ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**ブアースの日は、アッラーがご自身の使徒 ﷺ のために前もって用意された日でした。アッラーの使徒 ﷺ が（マディーナに）着かれたとき、かれらの指導者たちは分裂し、首長たちは殺されたり傷ついたりしていました。アッラーはそれを、かれらがイスラームに入ることを（容易にする）ために、ご自身の使徒 ﷺ のために前もって用意されたのです。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ウバイド・ブン・イスマーイール ← アブー・ウサーマ ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← その父 ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、援助者たちの美徳の章、ハディース第 3777 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3777

このハディースの教訓

ブアースの戦いは、イスラームに反対したかもしれない**古い指導者たちを弱め**、ヤスリブの人々を**敵対に疲れさせ**、かれらを一つにまとめられる指導者を求めさせました。アッラーの使徒 ﷺ が来られたとき、かれらの心はすでに準備ができていたのです。

スィーラの注：ユダヤ教徒と待たれていた預言者

スィーラ書によれば、ヤスリブのユダヤ教徒たちはアウス族とハズラジュ族に、**一人の預言者が遣わされる**、自分たちはかれに従ってアラブを打ち負かすのだと、よく言っていました。イブン・カスィールは雌牛章 2:89 のタフスィールでこれに触れています。ハズラジュ族の人々はアッラーの使徒 ﷺ に会ったとき、互いに言い合いました。「これはユダヤ教徒が約束していた預言者だ。かれらに先を越されてはならない。」

参照：

『タフスィール・イブン・カスィール』2:89 https://tafsir.app/ibn-katheer/2/89

ハズラジュ族の六人

スィーラの注：巡礼の季節の出会い

『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』によれば、**預言者として遣わされて 11 年目**（西暦 620 年ごろ）の巡礼の季節に、アッラーの使徒 ﷺ はミナーのアカバで**ヤスリブから来た六人の男**――全員ハズラジュ族――に会われました。かれはクルアーンを読み聞かせてイスラームに招き、かれらは皆信仰しました。

その中には、のちにムスアブ・ブン・ウマイルを家に迎えることになる**アスアド・ブン・ズラーラ**がいました。かれらはヤスリブに戻ってアッラーの使徒 ﷺ のことを広め、やがてヤスリブでかれの名が話題にならない**家は一軒もない**ほどになりました。

参照：

アル＝ムバーラクフーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』――「The First ‘Aqabah Pledge」。https://islam101.com/index.php/with-the-prophet/biographies/44-ar-raheeq-al-makhtum/499-the-first-aqabah-pledge

六人の人、一つの始まり

マッカでの十年の宣教で得られた成果は限られていましたが、別の町から来た**六人**が歴史の転換点となりました。アッラーはしばしば、**小さく、思いがけない**始まりから大きな事を始められます。

教訓：**一度の出会い**や**一度の会話**による宣教を軽んじてはいけません。ミナーでの短い出会いが、イスラームの国の始まりとなったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第一次アカバの誓い

翌年の巡礼の季節――**預言者として遣わされて 12 年目**――、その六人のうち五人がほかの七人とともに戻って来て、アウス族の二人を含む**十二人**となりました。アカバでかれらはアッラーの使徒 ﷺ に誓いを立てました。その一人、ウバーダ・ブン・アッ＝サーミト رضى الله عنه が誓いの内容を伝えています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 18 番

حَدَّثَنَا أَبُو اليَمَانِ، قَالَ أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي أَبُو إِدْرِيسَ، عَائِذُ اللَّهِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ أَنَّ عُبَادَةَ بْنَ الصَّامِتِ ـ رضى الله عنه ـ وَكَانَ شَهِدَ بَدْرًا، وَهُوَ أَحَدُ النُّقَبَاءِ لَيْلَةَ الْعَقَبَةِ ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ وَحَوْلَهُ عِصَابَةٌ مِنْ أَصْحَابِهِ «بَايِعُونِي عَلَى أَنْ لاَ تُشْرِكُوا بِاللَّهِ شَيْئًا، وَلاَ تَسْرِقُوا، وَلاَ تَزْنُوا، وَلاَ تَقْتُلُوا أَوْلاَدَكُمْ، وَلاَ تَأْتُوا بِبُهْتَانٍ تَفْتَرُونَهُ بَيْنَ أَيْدِيكُمْ وَأَرْجُلِكُمْ، وَلاَ تَعْصُوا فِي مَعْرُوفٍ، فَمَنْ وَفَى مِنْكُمْ فَأَجْرُهُ عَلَى اللَّهِ، وَمَنْ أَصَابَ مِنْ ذَلِكَ شَيْئًا فَعُوقِبَ فِي الدُّنْيَا فَهُوَ كَفَّارَةٌ لَهُ، وَمَنْ أَصَابَ مِنْ ذَلِكَ شَيْئًا ثُمَّ سَتَرَهُ اللَّهُ، فَهُوَ إِلَى اللَّهِ إِنْ شَاءَ عَفَا عَنْهُ، وَإِنْ شَاءَ عَاقَبَهُ». فَبَايَعْنَاهُ عَلَى ذَلِكَ.

訳：

ウバーダ・ブン・アッ＝サーミト رضى الله عنه ――かれはバドルの戦いに参加し、アカバの夜の代表者（ナキーブ）の一人であった――によれば、アッラーの使徒 ﷺ は、周りに教友の一団がいるときに言われた。「**私に誓いなさい。アッラーに何ものも並べないこと、盗まないこと、姦通しないこと、自分の子どもを殺さないこと、でっち上げた中傷をしないこと、正しいことにおいて背かないことを。あなたがたのうちそれを果たす者の報奨はアッラーのもとにある。そのいずれかを犯して現世で罰せられた者には、それが償いとなる。そのいずれかを犯し、アッラーがそれを覆い隠された者については、その事はアッラーにゆだねられる。アッラーが望まれれば赦し、望まれれば罰せられる。**」そこで私たちは、そのことについてかれに誓いを立てた。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブル・ヤマーン ← シュアイブ ← アッ＝ズフリー ← アブー・イドリース・アーイズッラー・ブン・アブディッラー ← ウバーダ・ブン・アッ＝サーミト رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』信仰の書、ハディース第 18 番。ムスリム（第 1709 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:18

このハディースの教訓

この誓いは、その条件がクルアーンに述べられた女性たちの誓い（試問される女章 60:12）とほとんど同じであるため、「**女性の誓い**」（**バイア・アン＝ニサー**）として知られています。戦いの約束は含まれておらず、**信仰と品性**の誓いでした。

誓いの条件	社会への影響
アッラーに何ものも並べない	生活のすべてにおける唯一神信仰の土台。
盗まない	財産と信託を守る。
姦通しない	血筋と家族の名誉を守る。
子どもを殺さない	赤ん坊を殺すジャーヒリーヤの慣習を止める。
中傷をしない	社会の名誉と信頼を守る。
正しいことにおいて従う	指導者への服従は善いことに限られる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

ムスアブ・ブン・ウマイル：イスラーム最初の使節

第一次アカバの誓いの後、アッラーの使徒 ﷺ は**ムスアブ・ブン・ウマイル** رضى الله عنه をヤスリブに送り、クルアーンと宗教を教えさせました。当時援助者たちの若者だったアル＝バラー・ブン・アーズィブ رضى الله عنهما は、かれの到着をこう覚えています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3925 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا غُنْدَرٌ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، قَالَ سَمِعْتُ الْبَرَاءَ بْنَ عَازِبٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ أَوَّلُ مَنْ قَدِمَ عَلَيْنَا مُصْعَبُ بْنُ عُمَيْرٍ وَابْنُ أُمِّ مَكْتُومٍ، وَكَانَا يُقْرِئَانِ النَّاسَ، فَقَدِمَ بِلاَلٌ وَسَعْدٌ وَعَمَّارُ بْنُ يَاسِرٍ، ثُمَّ قَدِمَ عُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ فِي عِشْرِينَ مِنْ أَصْحَابِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم ثُمَّ قَدِمَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم، فَمَا رَأَيْتُ أَهْلَ الْمَدِينَةِ فَرِحُوا بِشَيْءٍ فَرَحَهُمْ بِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، حَتَّى جَعَلَ الإِمَاءُ يَقُلْنَ قَدِمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَمَا قَدِمَ حَتَّى قَرَأْتُ {سَبِّحِ اسْمَ رَبِّكَ الأَعْلَى} فِي سُوَرٍ مِنَ الْمُفَصَّلِ.

訳：

アル＝バラー・ブン・アーズィブ رضى الله عنهما は言った。「（**マディーナの）私たちのもとに最初に来たのは、ムスアブ・ブン・ウマイルとイブン・ウンミ・マクトゥームで、二人は人々にクルアーンの読み方を教えていた。**」その後、ビラール、サアド、アンマール・ブン・ヤースィルが来て、さらにウマル・ブン・アル＝ハッターブが預言者 ﷺ の教友二十人とともに来た。そして預言者 ﷺ ご自身が到着された。「**私は、マディーナの人々がアッラーの使徒 ﷺ のことを喜んだほど、何かを喜ぶのを見たことがない**」女奴隷たちまでが「アッラーの使徒 ﷺ が来られた！」と言うほどであった。かれが到着される前に、私はほかのムファッサル章とともに {至高なるあなたの主の御名を讃えよ} を読めるようになっていた。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← グンダル ← シュウバ ← アブー・イスハーク・アッ＝サビーイー ← アル＝バラー・ブン・アーズィブ رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、預言者ﷺと教友たちのマディーナ到着の章、ハディース第 3925 番。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3925

このハディースの教訓

スィーラの注：イスラームを選んだ裕福な若者

スィーラ書によれば、ムスアブはイスラーム以前、最上の衣服と香水を身につけたマッカで**最も裕福な若者**でした。イスラームに入った後、かれはその贅沢を捨てました。ヤスリブでは**アスアド・ブン・ズラーラ**の家に住みました。

かれの穏やかで賢明な宣教によって、アウス族の二人の大指導者——**サアド・ブン・ムアーズ**と**ウサイド・ブン・フダイル**——がイスラームに入り、かれらとともにアブドゥルアシュハル族全体が入信しました。ムスアブはのちにウフドで殉教し、その経帷子はかれの体全体を覆うのに足りませんでした（『サヒーフ・ブハーリー』1276）。

参照：

ウィキペディア「Mus'ab ibn Umayr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mus%27ab_ibn_Umayr

教訓：宣教には**知識と品性を備えた教師**が必要です。誠実で賢明な一人の若者が、一年のうちに一つの町を変えることができるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第二次アカバの誓い

スィーラの注：タシュリークの日々の夜の誓い

『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』によれば、**預言者として遣わされて 13 年目**（**西暦 622 年 6 月**）の巡礼の季節に、ヤスリブから来た**男性 73 人と女性 2 人**が、タシュリークの日々のある夜、アカバでひそかにアッラーの使徒 ﷺ に会いました。二人の女性は**ナシーバ・ビント・カアブ**（ウンム・ウマーラ）と**アスマー・ビント・アムル**です。

かれは、当時まだイスラームに入っていなかったおじの**アル＝アッバース**とともに来られました。アル＝アッバースはかれらに、かれを守り抜く覚悟があるときだけ連れて行くように、そうでなければ今のうちに手を引く方がよいと念を押しました。

参照：

アル＝ムバーラクフーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』――「The Second ‘Aqabah Pledge」。https://seerah.gtaf.org/books/1/chapters/13/the-second-aqabah-pledge/

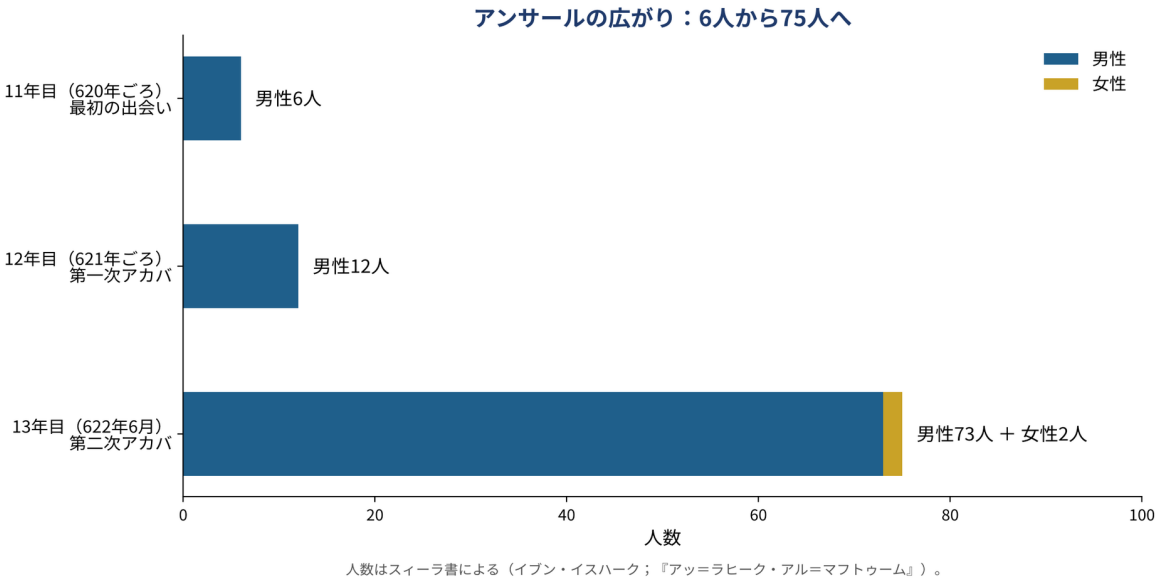


図 5：六人から七十五人への援助者たちの増加。

第二の誓いの条件

『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』が引用する『ムスナド・アフマド』のジャービル・ブン・アブディッラー رضى الله عنهما の伝承によれば、第二の誓いには次の条件が含まれていました。

条件	意味
どんな状況でも聞き従う	新しい社会の規律。
豊かなときも苦しいときも施す	財産を犠牲にする覚悟。
善を命じ、悪を禁じる	すべてのムスリムの社会的責任。
アッラーのことにおいて非難を恐れない	道徳的な勇気。
自分の家族を守るようにかれを守る	防衛の約束――ヒジュラの土台。
その報奨：楽園	財産や現世の権力の約束はない。

アッラーの使徒 ﷺ はそれからかれらに、それぞれの民に責任を負う**十二人のナキーブ**（代表者）――**ハズラジュ族から九人、アウス族から三人**――を選ぶよう求められました。第一の誓いのハディースを伝えたウバーダ・ブン・アッ＝サーミトもその一人でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラへの道を開いた誓い

第二次アカバの誓いはスィーラの**転換点**です。初めて、ムスリムは**避難の場所**と、アッラーの使徒 ﷺ を守ると誓った共同体を持ったのです。それから間もなく、かれは教友たちが段階的にヤスリブへ移住することを許されました。

今日、**誓いのモスク（マスジド・アル＝バイア）**として知られる小さなモスクが、ミナーのジャムラ・アル＝アカバの近くに立ち、誓いが行われたと信じられている場所を示しています。

教訓：援助者たちに約束された報奨は**楽園**だけでしたが、かれらは固い確信をもってそれに応えました。最大の犠牲は**来世への信仰**から生まれるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

真正な伝承と有名な話のあいだ

夜の旅と昇天の話は、最も多く尾ひれが付けられた話の一つです。次の表は、真正なもの、スィーラ書からのもの、そして弱いか根拠のないものを区別しています。

話とその評価

有名な話	評価
昇天の前に、かれの胸が切り開かれて洗われた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。
女性の頭をもつ翼のある馬としてのブラーク。	根拠なし。真正なハディースは白い乗り物とだけ述べている。
かれはエルサレムで預言者たちの導師を務めた。	真正（『サヒーフ・ムスリム』172）。
七つの天の預言者たちとムーサーの涙。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。
五十回の礼拝が五回に減らされた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3887、349）。
夜の旅はラジャブ月 27 日に起きた。	見解が分かれる。日付についての真正な伝承はない。
ラジャブ月 27 日の夜の特別な崇拝行為。	真正な根拠はない。
かれは肉眼でアッラーを見た。	アーイシャが否定（『サヒーフ・ブハーリー』4855）。イブン・アッバース：心で。
銅の爪で顔をかきむしる人々。	真正（『スナン・アビー・ダーウード』4878）。
昇天の夜のさまざまな罰についての長い話。	その多くは弱いか捏造。
アブー・バクル：「かれがそう言ったのなら、それは真実だ。」	アル＝ハーキム。一部の学者が真正と評価。
第一次アカバの誓いとその条件。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』18）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

有名な話	評価
ムスアブ・ブン・ウマイルがヤスリブでクルアーンを教えた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3925）。

省察

夜の旅と昇天についての真正な伝承は、それだけで十分に驚くべきものです。この出来事を**たたえる**ために、弱い付け足しは必要ありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このシリーズの重要な場所

本書の出来事は、カアバのそばで始まり、夜のわずかな時間に何千キロも離れたエルサレムへと飛び、マッカに戻り――そして援助者たちが誓いを立てたミナーの丘の小道で終わります。この章は、読者が距離と雰囲気を思い描けるように、それらの場所をまとめています。

場所の表

表の距離は**おおよそ**のもので、直線距離は現代の座標から計算しています。かれの時代の隊商はシャームに着くまでに約一か月かかりました――だからこそ、一夜のうちのわずかな時間に起きた旅をかれが語ったとき、クライシュ族は嘲ったのです。

場所	このシリーズとの関わり	場所／今日の様子
ハティーム（ヒジュル／ヒジュル・イスマーイール）	昇天の前に天使が来て胸を切り開いたとき、かれが横になっていた場所（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。クライシュ族が否認したとき、かれが立っていた場所（『サヒーフ・ブハーリー』3886）。	カアバの北側にある半円形の区域で、マスジド・ハラームの中にある。
マッカのかれの家	ある伝承では、かれの家の屋根が開いてジブリールが降りて来た（『サヒーフ・ブハーリー』349）。スィーラ書は、かれがウンム・ハーニーの家で夜を過ごしたと述べている――スィーラ書の伝承。	正確な場所は不明。マッカの旧市街は今ではその大部分がマスジド・ハラームに含まれている。
エルサレム（アクサー・モスク）	夜の旅の目的地。かれはブラークをつなぎ、二ラクアの礼拝をした（『サヒーフ・ムスリム』162）。	マッカの北西、直線距離で約 1,240km。
岩（サフラ）の区域	アクサーの境内の中央にある大きな岩。岩のドームは、この出来事の約 70 年後にその上に建てられた。	アクサーの境内の広場の中央。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

場所	このシリーズとの関わり	場所／今日の様子
ブラークの壁	ムスリムの伝統では、ここでブラークがつながれたとされる。正確な場所は伝統であって、聖典の明文ではない。	アクサーの境内の西の壁。ブラーク・モスクはその中にある小さな礼拝所である。
ミナーのアカバの小道	二度のアカバの誓いの場所（スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』18）。	誓いのモスク。ジャムラ・アル＝アカバの北東約500m、カアバから約5km。
ヤスリブ（マディーナ）	誓いを立てた援助者たちの町。このシリーズの後のヒジュラの目的地。	マッカの北、直線距離で約340km。

資料：ウィキペディア「Al-Aqsa Mosque」；ウィキペディア「Al-Buraq Mosque」；Saudipedia「Al-Bay'ah Mosque」；『サヒーフ・ムスリム』162。

二つのモスク、四十年

アブー・ザッル رضى الله عنه はかつてアッラーの使徒 ﷺ に、地上で最初に建てられたモスクはどれかと尋ねました。かれは「マスジド・ハラームだ」と答えられました。「その次は」と聞くと、「マスジド・アクサーだ」と答えられました。「その間はどれくらいですか」と聞くと、「四十年だ」と答えられました（『サヒーフ・ブハーリー』3366）。

夜の旅は、地上で最も古い二つのモスクを一夜のうちに結びました。学者たちは、このハディースの「モスク（マスジド）」とは、アッラーに平伏するために定められた場所のことであり、必ずしも今日私たちが知っているような建物を意味するのではないと説明しています。

ミナーの誓いのモスク

Saudipedia によれば、誓いのモスク（マスジド・アル＝バイア）は、アッバース朝のカリフ、アブー・ジャアファル・アル＝マンスールが西暦761年（ヒジュラ暦144年ごろ）、誓いの場所と信じられている、ジャムラ・アル＝アカバの北東約500メート

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ルのところに建てたものです。カリフ、アル＝ムスタンスィルの時代の西暦 1227 年を含め、何度か修復されました。建物は小さく、ひそかに行われたあの夜の会合の雰囲気にふさわしいものです。

資料：Saudipedia「Al-Bay'ah Mosque」。

教訓

一か月かかる道のりが夜のわずかな時間で進まれ、ミナーの小さな小道が一つの国の生まれる場所となりました。遠い近い、大きい小さいという人間の尺度は、アッラーの尺度とは同じではないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

夜の旅の時代のエルサレム

アッラーの使徒 ﷺ がエルサレムへ旅をさせられたとき、その町はアラブの手にも、ビザンツ（ローマ）の手にもありませんでした。当時のエルサレムの状況を知ると、なぜクライシュ族がその町についての質問でかれを「試せる」と確信していたのかがよくわかります。

ペルシアによる占領

ウィキペディアによれば、**西暦 614 年**、ホスロー2 世の時代に、将軍**シャフルバラーズ**が率いるサーサーン朝ペルシアの軍が包囲の末にエルサレムを占領しました。キリスト教徒が崇敬する十字架（「聖十字架」）は奪われ、ペルシアの都クテシフォンへ運ばれました。キリスト教国ビザンツにとって、それは非常に大きな打撃でした。

この出来事は、マッカでの宣教の初期の年に起きました。クルアーン自身がビザンツのその敗北を記録し、かれらが数年のうちに再び勝つと約束しています（ビザンチン章 30:2–4）。マッカの多神教徒たちは火を拝むペルシアの勝利を喜び、ムスリムは啓典の民であるビザンツに同情しました。

一夜のうちに訪れた町

多くのスィーラ学者の見解のように夜の旅がヒジュラの約 1 年前に起きたのなら、そのときエルサレムはまだペルシアの支配下にありました。その町は、シャームへ行き来するクライシュ族の商人たちに知られていました。だからこそ、かれらはかれにその様子を説明してみよと挑んだのです――そしてアッラーはエルサレムをかれの前に現し、かれはすべての質問に答えることができました（『サヒーフ・ブハーリー』3886；『サヒーフ・ムスリム』172）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ビザンツへの返還

クルアーンの約束は果たされました。ヘラクレイオスは西暦 622 年――ヒジュラの年――から反撃を始め、ついにペルシアは屈しました。ウィキペディアによれば、**西暦 628 年**の和平条約でパレスチナの地とその十字架はビザンツに返されました。ペルシア軍は少なくとも 629 年の夏の終わりか秋の初めまでエルサレムにとどまっていました。**西暦 630 年 3 月 21 日**、ヘラクレイオス自身がその十字架を携えてエルサレムに行進して入りました。

そのわずか数年後、エルサレムはカリフ、ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه の時代、**西暦 638 年**ごろ（ヒジュラ暦 16〜17 年ごろ）にムスリムに開かれました。

資料：Wikiwand／ウィキペディア「Sasanian conquest of Jerusalem」；Wikiwand／ウィキペディア「Dome of the Rock」。

> **歴史の注：異なる年代**
>
> 歴史資料は、西暦 614 年にエルサレムが占領された正確な月（4 月か 5 月か）や、ムスリムによるエルサレム開城の年（637 年か 638 年か）について異なっています。本書は多くの資料が採っている年代を用い、それがおおよそのものであることを示しています。
>
> 夜の旅と昇天そのものの日付も、「夜の旅と昇天はいつ起きたのか」の章で論じたように、学者のあいだで意見が分かれています。

教訓

エルサレムが二つの大帝国のあいだで手から手へと移っていたとき、アッラーはマッカで虐げられていたご自身のしもべの一人をその町へ旅させ、預言者たちの導師とされました。現世の権力は移り変わりますが、真の栄誉はアッラーが選ばれた者のものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

歴史の足跡：アクサー・モスクの境内

多くの人は、有名な金色のドームの写真を「アクサー・モスク」だと思っています。実際には、アクサーの区域は約 14.4 ヘクタールの塀で囲まれた広場全体であり（「アクサー・モスク」の章を参照）、その中には夜の旅のずっと後に建てられたいくつかの建物があります。この章は、確かな歴史記録に基づいて主な建物を紹介します。

主な建物とその年代

建物	建てられた時期	説明
キブリー・モスク	ウマイヤ朝の時代。その後何度も修復された	境内の南側にある主な礼拝堂。ふつう「アクサー・モスク」と呼ばれるもの。
岩のドーム	カリフ、アブドゥルマリク・ブン・マルワーンの命により、西暦 691〜692 年ごろ（ヒジュラ暦 72 年）に完成	大きな岩（サフラ）の上に建つドームのある建物。集団礼拝のモスクではなく、歴史的な聖所（シュライン）に分類される。
ブラーク・モスク	西暦 10 世紀ごろ（おそらくそれ以前）	境内の南西の角に近い、ブラークの壁のそばの地下にある小さな礼拝所。

資料：Wikiwand／ウィキペディア「Dome of the Rock」；ウィキペディア「Al-Buraq Mosque」；ウィキペディア「Al-Aqsa Mosque」。

岩のドームの碑文（ヒジュラ暦 72 年）

岩のドームには、ヒジュラ暦 1 世紀の最も重要なイスラームの碑文がいくつか残されています。内部のモザイクの碑文は**ヒジュラ暦 72 年**（西暦 691〜692 年）の日付をもち、クルアーンからの多くの引用を含んでいます。その中には、啓典の民に宗教において度を越さないよう呼びかけ、イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ がアッラーの使徒でありその

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

御言葉であると述べる節（女性章 4:171 に対応）や、外側のアーチにある純正章（純正章 112）があります。

この碑文は、アッラーの使徒 ﷺ の逝去から約六十年後に、クルアーンの本文が公の場に正式に掲げられていたことを示しているため、重要です。

資料：Islamic Awareness「The Arabic Islamic Inscriptions On The Dome Of The Rock, 72 AH / 692 CE」；Wikiwand／ウィキペディア「Dome of the Rock」。

ブラークの壁と預言者たちの輪

真正なハディースは、かれがブラークを**預言者たちが乗り物をつないでいた輪**につなぎ、それからモスクに入って二ラクアの礼拝をされたと述べています（『サヒーフ・ムスリム』162）。

ムスリムは古くからその場所をアクサーの境内の西の壁と結びつけ、**ブラークの壁**と名づけてきました。ウィキペディアによれば、歴史家イブン・アル＝ファキーフは西暦 903 年に「マルバト・アル＝ブラーク」（ブラークをつなぐ場所）という所に言及しています。今日のブラーク・モスクは、その壁のそばの階段状の通路の中にある小さな礼拝所です。

> **注：聖典の明文と伝統のあいだ**
>
> 真正なハディースは「預言者たちが使っていた輪」と述べるだけで、その場所を特定していません。その場所をブラークの壁とするのは、何世紀にもわたってムスリムが受け継いできた**伝統**であって、真正な明文ではありません。実際、アル＝ミクナースィー（西暦 1785 年）のような昔の学者の中には、当時の輪は目印にすぎず、元の場所は埋もれてしまったと述べる人もいます。
>
> 均衡のとれた態度は、この伝統を共同体の遺産として尊重しつつ、それを確かな事実だと主張しないことです。

資料：ウィキペディア「Al-Buraq Mosque」。

教訓

アクサーの美しい建物は、アッラーの使徒 ﷺ の後の世代が、夜の旅の場所への愛のしるしとして建てたものです。私たちはその愛を受け継いでいます――しかし、明文から真正であるものと伝統であるものとを区別し、私たちの愛が知識の上に立つようにしなければなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このシリーズの人物

このシリーズでアッラーの使徒 ﷺ は二つの人々に出会われます。夜の旅と昇天の夜に出会った預言者たちと、その知らせを受け入れたり拒んだりした地上の人々、そして誓いを立てた援助者たちです。下の表はかれらを典拠とともにまとめたものです。

出会った預言者たち

天の順序は、マーリク・ブン・サアサアのハディース（『サヒーフ・ブハーリー』3887）によります。それぞれの出会いの詳細は「七つの天の預言者たち」の章で説明しました。

預言者	出会った場所	典拠
預言者たち（大勢）	エルサレム――かれが導師を務めた	『サヒーフ・ムスリム』172
アーダム عَلَيْهِ السَّلَامُ	第一天	『サヒーフ・ブハーリー』3887
ヤフヤーとイーサー عَلَيْهِمَا السَّلَامُ	第二天	『サヒーフ・ブハーリー』3887
ユースフ عَلَيْهِ السَّلَامُ	第三天	『サヒーフ・ブハーリー』3887
イドリース عَلَيْهِ السَّلَامُ	第四天	『サヒーフ・ブハーリー』3887
ハールーン عَلَيْهِ السَّلَامُ	第五天	『サヒーフ・ブハーリー』3887
ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ	第六天。墓の中で礼拝している姿も見られた	『サヒーフ・ブハーリー』3887；『サヒーフ・ムスリム』2375

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

預言者	出会った場所	典拠
イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ	第七天。アル＝バイト・アル＝マアムールに背をもたせていた	『サヒーフ・ブハーリー』3887；『サヒーフ・ムスリム』162

地上の人物

人物	本巻での役割	典拠
ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ	かれの胸を切り開き、夜の旅と昇天のあいだずっとかれに付き添った。	『サヒーフ・ブハーリー』3887
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク رضى الله عنه	夜の旅の知らせを疑いなく信じ、アッ＝スィッディークと呼ばれた。	スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』3675
ウンム・ハーニー・ビント・アビー・ターリブ رضى الله عنها	スィーラ書によれば、かれは夜の旅の夜にかの女の家で過ごした。	スィーラ書（イブン・イスハーク）
アスアド・ブン・ズラーラ رضى الله عنه	最初に信仰したハズラジュ族の六人の一人。ヤスリブでムスアブを家に迎えた。	スィーラ書
ウバーダ・ブン・アッ＝サーミト رضى الله عنه	第一次アカバの誓いに参加し、その内容を伝えた。	『サヒーフ・ブハーリー』18
ムスアブ・ブン・ウマイル رضى الله عنه	イスラーム最初の使節。ヤスリブでクルアーンを教えた。	『サヒーフ・ブハーリー』3925
カアブ・ブン・マーリク رضى الله عنه	第二次アカバの誓いに参加し、それを伝えた。	スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』4418
アル＝アッバース・ブン・アブドルムッタリブ	まだイスラームに入っていなかったが、第二の誓いの夜にかれに付き添った（スィーラ書による）。	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

教訓

天ではアッラーの使徒 ﷺ は預言者たちに迎えられ、地上では自分の民に否認されましたが、一人の教友に信じられ、援助者たちに守られました。すべてのムスリムは、アブー・バクルや援助者たちのように、真理を信じ、それを守る者となることを選べるのです。

年表：スィーラと世界

この表は、このシリーズの出来事を、エルサレムとその周辺の帝国の大きな出来事と並べたものです。夜の旅と昇天の日付について学者の見解が分かれているため、スィーラの出来事の西暦年は**おおよそ**のものです。

年（推定）	預言者伝（スィーラ）	世界とエルサレム
西暦 614 年	マッカでの公然の宣教。迫害が始まる。	ペルシアがエルサレムを占領（シャフルバラーズ）。十字架がクテシフォンへ運ばれる。
西暦 619〜620 年	悲しみの年。ターイフへの旅（第 5 巻）。	エルサレムはまだペルシアの支配下。
西暦 620 年ごろ（遣わされて 11 年目）	ハズラジュ族の六人がアカバで信仰する。	—
西暦 621 年ごろ（多くの見解）	夜の旅と昇天。一日五回の礼拝が義務とされる。	—
西暦 621 年ごろ（12 年目）	第一次アカバの誓い。ムスアブがヤスリブへ送られる。	—
西暦 622 年 6 月（13 年目）	第二次アカバの誓い：男性 73 人と女性 2 人。	ヘラクレイオスがペルシアへの反撃を始める。
西暦 622 年 9 月（ヒジュラ暦 1 年ラビーウ・アル＝アウワル月）	アッラーの使徒 ﷺ のマディーナへのヒジュラ。	—
西暦 628〜629 年	—	和平条約：パレスチナと十字架がビザンツに返される。
西暦 630 年 3 月 21 日	—	ヘラクレイオスがエルサレムに行進して入る。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年（推定）	預言者伝（スィーラ）	世界とエルサレム
西暦 638 年ごろ（ヒジュラ暦 16〜17 年）	—	ウマル رضى الله عنه の時代にエルサレムがムスリムに開かれる。
西暦 691〜692 年（ヒジュラ暦 72 年）	—	アブドゥルマリクにより岩のドームが完成する。

資料：スィーラ書（『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』）；Wikiwand／ウィキペディア「Sasanian conquest of Jerusalem」；Wikiwand／ウィキペディア「Dome of the Rock」。

教訓

二十五年足らずのうちに、エルサレムはペルシアの手からビザンツへ、そして夜の旅の夜にその預言者がそこで導師を務めた共同体の手へと移りました。この年表は、信仰の目で歴史を読むことを教えてくれます。人々には不可能に見えても、アッラーの約束は必ず果たされるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

よくある質問

以下は、夜の旅、昇天、アカバの誓いについてよく尋ねられる質問と、本書で論じた資料に基づく短い答えです。ハディースごとの詳しい議論については、**特別版**『**夜の旅と昇天の物語**』も参照してください。

1. 夜の旅と昇天は実際にはいつ起きたのですか。

学者の見解は分かれています。多くのスィーラ学者の見解は、ヒジュラの約1年前です。ラジャブ月 27 日という日付は非常に有名ですが、真正な伝承に基づいてはいません。「夜の旅と昇天はいつ起きたのか」の章の見解の表を参照してください。

2. 夜の旅と昇天は体と魂によるものですか、それとも夢の中のことですか。

学者の大多数の見解は、目覚めた状態で、体と魂によるものだということです。その根拠には、夜の旅章 17:1 の「そのしもべ」という言葉や、否認したクライシュ族の反応――かれがただ夢を語っただけなら嘲りはしなかったでしょう――があります。ごく一部のサラフが魂によるものだとした伝承もあり、この見解はタフスィール学者によって論じられています。「人々への試練」の章を参照してください。

3. 昇天の夜にかれはアッラーを見られたのですか。

教友たち自身の見解が分かれていました。アーイシャ رضى الله عنها はそれを否定し（『サヒーフ・ブハーリー』4855）、イブン・アッバース رضى الله عنهما はかれが心で見たと述べ（『サヒーフ・ムスリム』176）、アブー・ザッル رضى الله عنه が尋ねたとき、かれは「光である。どうしてかれを見ることができようか」と答えられました（『サヒーフ・ムスリム』178）。これは慎重な態度が求められる目に見えない事柄です。「かれはアッラーを見られたのか」の章を参照してください。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

4. ラジャブ月 27 日の夜に特別な崇拝行為はありますか。

夜の旅と昇天の夜にちなんで、特定の礼拝や断食のような特別な崇拝行為を定めた真正な伝承はありません。スィーラを学び、礼拝を守り、全般的に善行をすることでこの出来事を思い起こすのは良いことです。避けるべきなのは、根拠のない特別な行いを定めることです。

5. 夜の旅の夜にアクサー・モスクの建物はすでにあったのですか。

今日私たちが目にする建物はその後に建てられたものです（「歴史の足跡：アクサー・モスクの境内」の章を参照）。しかしクルアーンと真正なハディースは、「アクサー・モスク」を、マスジド・ハラームの四十年後から定められていた平伏の場所として述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3366）。アラビア語でマスジドとは平伏する場所のことであり、必ずしも建物ではありません。

6. ブラークはどこにつながれたのですか。

真正なハディースは、かれが預言者たちの使っていた輪にそれをつないだと述べています（『サヒーフ・ムスリム』162）。その場所をブラークの壁とするのはムスリムの伝統であり、正確な場所を定める明文ではありません。

7. 岩のドームはアクサー・モスクなのですか。

正確ではありません。岩のドームはアクサーの境内の中央にある大きな岩の上に建つドームのある建物で、ヒジュラ暦 72 年ごろに完成しました。主な礼拝堂は南側にあるキブリー・モスクです。どちらも、約 14.4 ヘクタールの広さをもつアクサー・モスクの区域の中にあります。

8. なぜ礼拝は地上ではなく天で義務とされたのですか。

学者たちは、これは礼拝の非常に高い地位を示していると説明しています。ほかの義務は地上のかれへの啓示によって下されましたが、礼拝は昇天の夜にじかに義務

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

とされました。礼拝はまた信仰者の「ミウラージュ」とも呼ばれます――主に最も近づくひとときです。

9. 一日五回の礼拝の報奨が五十回分というのは本当ですか。

はい。昇天のハディースの中で、アッラーはこう言われました。「それは五回であり、それは（報奨において）五十回である。わが言葉は変えられない」（『サヒーフ・ブハーリー』349）。これはムハンマド ﷺ の民へのとても大きな慈悲です。

10. 夜の旅の知らせを最初に信じたのは誰ですか。

スィーラ書は、アブー・バクル رضي الله عنه が知らされるとすぐにそれを信じ、アッ＝スィッディークと呼ばれたと伝えています。かれがスィッディークであることは真正なハディースによって裏づけられています（『サヒーフ・ブハーリー』3675）。

11. アカバの誓いはどこで行われたのですか。その場所を訪れることはできますか。

ミナーのアカバの丘の小道です。アッバース朝の時代に建てられた誓いのモスクが、今ではその場所と信じられている所を示しており、ジャムラ・アル＝アカバから約 500 メートルのところにあります。歴史をしのぶためにそこを訪れるのは差し支えありませんが、そこで定められた特別な行いはありません。

12. クライシュ族は、かれを試すのにどうやってエルサレムのことを知っていたのですか。

クライシュ族の商隊は毎年シャームへ行き来しており（第 2 巻）、多くの商人がエルサレムを見たことがありました。だからこそ、かれがそこへ行ったことがないと証明できると確信していたのです――しかしアッラーはエルサレムをかれの前に現されました（『サヒーフ・ブハーリー』3886）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

夜の旅と昇天は、目に見えない世界の偉大な出来事です。安全な態度は、真正なものを完全に信じ、学者の見解の違いには寛容であり、根拠のない付け足しを避けることです――この出来事が論争ではなく、信仰の源であり続けるように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

本書からの教訓

第一：困難の後、アッラーは天を開かれる。 夜の旅と昇天は悲しみの年の後に訪れた。

第二：最高の栄誉はアッラーのしもべであること。 「かれに栄光あれ。そのしもべを…旅をさせた」（17:1）。

第三：礼拝は天からの贈り物。 行いでは五回、報奨では五十回（『サヒーフ・ブハーリー』349、3887）。

第四：預言者たちは一つの家族。 かれは預言者たちの導師を務め、兄弟として迎えられた（『サヒーフ・ムスリム』172）。

第五：ムスリムの心の中のエルサレム。 夜の旅の目的地であり最初のキブラ（17:1；『サヒーフ・ブハーリー』40）。

第六：イスラームは天性の宗教。 ぶどう酒ではなく乳が選ばれた（『サヒーフ・ブハーリー』3394）。

第七：目に見えないものへの信仰。 アブー・バクルは信じた。イブン・アッバース：それは目による光景であった（『サヒーフ・ブハーリー』3888）。

第八：小さな始まり、大きな実り。 ハズラジュ族の六人がマディーナの始まりとなった。

第九：権力の前に信仰と品性。 第一の誓いは唯一神信仰と品性についてであった（『サヒーフ・ブハーリー』18）。

第十：誠実な教師は町を変える。 ムスアブ・ブン・ウマイルがヤスリブでクルアーンを教えた（『サヒーフ・ブハーリー』3925）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表のまとめ

時期（推定）	出来事と典拠
ターイフの後（西暦 619〜620 年）	かれは諸部族に自らを示した（『スナン・アビー・ダーウード』4734）
11 年目（西暦 620 年ごろ）	ハズラジュ族の六人がアカバで信仰した（スィーラ書）
ヒジュラの約 1 年前	夜の旅と昇天（17:1；『サヒーフ・ブハーリー』3887）
その翌朝	クライシュ族が否認。エルサレムが現される（『サヒーフ・ブハーリー』3886）
12 年目（西暦 621 年ごろ）	第一次アカバの誓い、12 人（『サヒーフ・ブハーリー』18）
第一の誓いの後	ムスアブ・ブン・ウマイルがヤスリブへ（『サヒーフ・ブハーリー』3925）
13 年目（西暦 622 年 6 月）	第二次アカバの誓い、男性 73 人と女性 2 人（スィーラ書）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

結び

カアバのそばのハティームから、エルサレムへ、七つの天を越えてスィドラ・アル＝ムンタハーへ、そして礼拝という贈り物を携えて地上へ戻り――さらにミナーのアカバへ。そこでヤスリブの人々はかれを守ると約束しました。悲しみの年の困難の後、アッラーは**天の門と地の門**を開かれたのです。インシャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』は**マディーナへのヒジュラ**――世界の歴史を変えた旅――へと続きます。ワッラーフ・アアラム（アッラーが最もよくご存じである）。

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（17:1；17:60；53:13–18；52:4；2:89）。https://tafsir.app/ibn-katheer/17/1

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』18、40、52、349、1189、1276、1386、3207、3394、3675、3777、3886、3887、3888、3925、4855、4856。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』82、162、172、173、176、177、178、482、2375。https://sunnah.com/muslim

『スナン・アビー・ダーウード』4734、4878；『スナン・アッ＝ティルミズィー』413；『スナン・アン＝ナサーイー』3939。https://sunnah.com

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ』（イブン・イスハークからの伝承）――夜の旅と昇天、アカバの誓いの章。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』――夜の旅と昇天、第一次・第二次アカバの誓いの章。

ウィキペディア「Isra' and Mi'raj」。https://en.wikipedia.org/wiki/Isra%27_and_Mi%27raj

ウィキペディア「Al-Aqsa Mosque」。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Aqsa_Mosque

ウィキペディア「アブー・バクル」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Bakr

ウィキペディア「Mus'ab ibn Umayr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mus%27ab_ibn_Umayr

ウィキペディア「Ansar (Islam)」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ansar_(Islam))

ウィキペディア「Battle of Bu'ath」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Bu%27ath

場所、歴史、碑文

Wikiwand ／ ウィキペディア 「 Sasanian conquest of Jerusalem 」 。 https://www.wikiwand.com/en/Sasanian_conquest_of_Jerusalem

Wikiwand ／ ウィキペディア 「 Dome of the Rock 」 。 https://www.wikiwand.com/en/Dome_of_the_Rock

Islamic Awareness「The Arabic Islamic Inscriptions On The Dome Of The Rock In Jerusalem, 72 AH / 692 CE」。https://www.islamic-awareness.org/history/islam/inscriptions/dotr

ウィキペディア「Al-Buraq Mosque」。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Buraq_Mosque

ウィキペディア「Al-Aqsa Mosque」。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Aqsa_Mosque

Saudipedia「Al-Bay'ah Mosque」。https://saudipedia.com/en/al-bay%22ah-mosque

『サヒーフ・ブハーリー』3366（sunnah.com）。https://sunnah.com/bukhari:3366

『サヒーフ・ムスリム』162（sunnah.com）。https://sunnah.com/muslim:162a

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

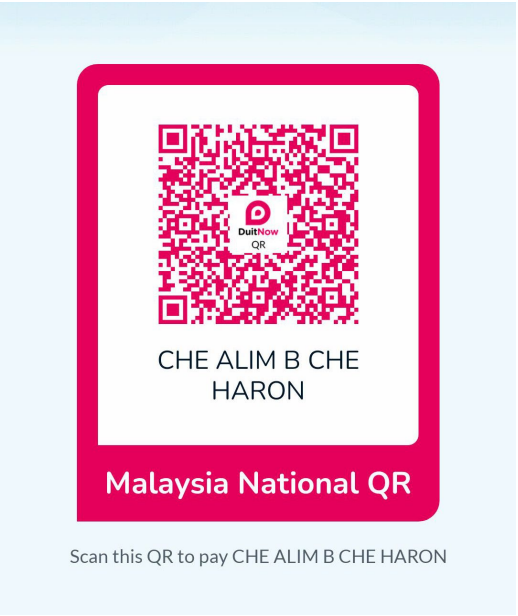
ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience